



地域医療連携だより

えん

発行日：令和8年4月 発行所：富山赤十字病院 富山市牛島本町2丁目1番58 TEL. 433-2492 発行責任者：時光 善温

緩和ケアと地域医療連携

患者支援センター長・地域医療連携室長 時光 善温



皆さまには当院の地域医療連携にご理解ご協力賜り誠にありがとうございます。

ご存知のとおり近年、地域医療を取り巻く環境は大きく変化しており、「救急医療体制の強化」、「急性期総合体制加算」と並び、クリニックにも関わるテーマとして「機能強化加算」、「質の高い在宅医療提供の推進」が今年度診療報酬改定の柱のひとつにもなっています。在宅医療充実体制加算の新設などが、「緩和ケア」、「地域医療連携」に関連して議論されてきました。特に高齢化の進行に伴い、がんや慢性疾患を抱える患者さんが地域で生活しながら適切な緩和ケアを受けられる体制づくりが急務となっています。

まず緩和ケアに関しては、従来の終末期ケアにとどまらず、疾患の早期から症状緩和や生活支援を行う早期緩和ケアの重要性が強調されています。これによりクリニックの外来の役割がこれまで以上に大切になります。疼痛管理や精神的サポート、在宅ケアへの橋渡しなど、多職種と連携した包括的な支援が期待されています。

こうした流れを受け、地域医療連携の強化は必須です。病院とクリニック、在宅ケア医、訪問看護、ケアマネジャー、薬局などが情報を共有し、患者の状態変化に応じて迅速に対応できる体制が重要です。特に緩和ケアでは、急性期病院から在宅への移行がスムーズに行われるかどうかは患者さんのQOLに直結するため、クリニック、地域医療連携室・患者支援センターの役割はさらに大きくなります。

総じて緩和医療の質向上と地域医療連携の強化は、診療報酬改定の方向性とも一致しており、地域クリニックと当院緩和ケアチーム、緩和治療センターが果たすべきそれぞれの機能を明確に連携する必要があります。患者さんが住み慣れた地域で安心して療養でき、クリニックの先生方にも理想とする医療を実現できる体制づくりに向け、今後も積極的な連携と実践を心掛けたいと存じます。皆さまと力を合わせ地域のwell-beingを実現しましょう。

理念

人道・博愛の赤十字精神にもとづく
良質で安全な医療の提供

基本方針

- 1 患者さん中心の医療を提供します
- 2 より安全で高度な医療の実践を目指します
- 3 地域医療に貢献する病院を目指します
- 4 災害救護ならびに医療社会奉仕に努めます
- 5 次代を担う医療従事者を育成します
- 6 働きがいのある病院運営に努めます
- 7 健全経営の維持に努めます



患者さんの権利

病院の「理念」・「基本方針」にもとづき患者さんが安心して医療を受けることができるよう、以下の権利を大切にします

- 1 個人の尊厳が守られる権利
- 2 プライバシーが保障される権利
- 3 適切な情報と説明を受ける権利
- 4 自ら医療行為を選択する権利
- 5 セカンドオピニオンを求める権利
- 6 適切で最善の医療を受ける権利
- 7 子ども達が分かりやすく心のこもった医療を受ける権利

患者さんの責務

医療は患者と医療者との協同作業です。より適正な医療提供のため、以下の責務について十分ご理解をいただき、ご協力をお願いします

- 1 ご自身の健康状態に関する正確な情報をお伝えください
- 2 医療者と力を合せて診療に参加し、最大限の治療効果を発揮できるようにご協力ください
- 3 病院のルールに従い、院内での迷惑行為は慎んでください
- 4 受けた医療に対し、診療費をお支払ください

富山赤十字病院

慢性硬膜下血腫に対する 中硬膜塞栓術について

脳血管センター長 桑山 直也
脳神経外科医師 古賀 悠一郎



脳血管センター長 桑山 直也

慢性硬膜下血腫 (Chronic subdural hematoma; CSDH) は脳神経外科領域において日常的に遭遇する疾患の一つですが、この超高齢化社会で治療を受ける患者さんの数が増加しています。片麻痺や意識障害など脳卒中に類似した症状で発症しますが、治療により全快する疾患です。近年、病態が詳しく解明され、新しい治療法が出てきました。

従来は、この出血は頭部外傷後に時間をかけて静脈から出血し、被膜で覆われた血腫腔を形成すると説明されています。最近の知見によると、実際にはまず脳を包むくも膜と硬膜間に存在するdural border cell layer (DBC layer) から出血が起きます。ご存知の通り、原因の多くは頭部外傷であり、非外傷性の原因としては抗血栓療法や低髄圧などがあります。そして、血腫が増大する機序として、惹起された炎症細胞が血管新生を誘導し、DBC layer に漏出した髄液や血液が混じり合って血腫腔が形成されるというのが最近の有力な説です。つまり、外傷だけではなく血管障害のような炎症性の側面があるということです。

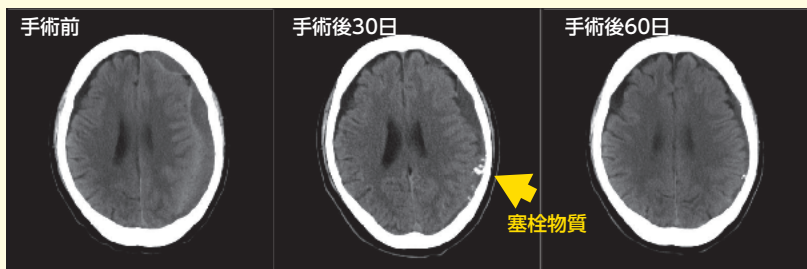


さて、CSDHに対して効果が示されている治療法は以下の二つです。

(実は五苓散やトラネキサム酸が血腫を縮小させるという効果はほとんどのメタ解析で否定的です)

1. 穿頭ドレナージ術；頭蓋骨に1円玉くらいの大きさの穴を開け、ドレーンを血腫腔に入れて溜まった血腫を体外に排出する方法です。もっとも一般的な手術です。
2. 中硬膜動脈塞栓術；CSDHの外膜を栄養する中硬膜動脈という血管をカテーテル治療で塞栓することによって、血腫外膜での炎症・出血を止め、血腫の縮小・再発予防を行う方法です。

慢性硬膜下血腫の手術は安全で効果的ですが、再発率がやや高く10人に1人は再発します。近年注目されている中硬膜動脈塞栓術は大規模臨床試験で再発率が低く、かつ安全な手術方法であるということが明らかとなってきました。それを受けて、全国でも中硬膜動脈塞栓術の手術件数が急増しています。当院でも2024年からCSDHに対する中硬膜動脈塞栓術を始めました。特に、穿頭ドレナージ術の術後に再発した症例や、再発リスクが高い患者さん(抗血栓療法や超高齢の方)に行なっています。そして、当院で塞栓術を行ったほぼすべての患者さんで血腫の縮小、症状の改善が得られています。また、カテーテル治療は患者さんの負担が軽いため術後の回復が早く、数日で退院可能です。慢性硬膜下血腫で増大傾向のものや、抗血栓療法などの出血リスクが高い患者さんには特に効果的な治療です。ご紹介をお待ち申し上げております。



(文責：古賀 悠一郎)

健診3か月後の再検査(C3判定)へ のご協力をお願い

健診部長 仙田 聡子



健診後の精密検査・治療に対し、地域の先生方にはご理解とご協力いただき誠にありがとうございます。

当センターが健診施設機能評価認定を受けている日本人間ドック・予防医療学会は、予防医療を推進すべく2024年に日本人間ドック学会から名称変更しました。予防医療の取り組みの1つに重症化予防における健診後のフォローアップを挙げています。健診人間ドック判定において、受診者の予防行動を明確に指示する目的で、「C要経過観察」の表記が「C要再検査・生活改善」へ改訂され、再検査時期を明記することになっています。当センターでも「C3：生活改善/再検査(3か月後)」を設置し、フォローアップ検診で再検査をすすめてきました。より予防行動を推進していくため、2026年度より精密検査・治療と同様に「C3：生活改善/再検査(3か月後)」の判定においても「依頼文書および返書」を発行させていただくことといたしました。

ただちに受診が必要な「要精査G・要治療D」までには至っていないが、次回の健診までに放置すると悪化して将来的リスクが高まる可能性がある受診者を対象に、生活習慣の改善を行って3か月後に再検査し、リスクが改善し予防対策の継続でよいのか、さらなる対策が必要なのか、精密検査・治療にすすむ必要があるのかなどを確実に確認いただくようご案内しています。受診された際には、再検査・ご指導いただき、返書でお知らせいただきたくお願いいたします。先生方からいただいた返書を次年度の健診時の保健指導・事後指導に活かし、地域の先生方と連携して受診者の予防に努めていきます。

日頃の診療の中で大変お忙しいとは存じますが、ご協力いただきたくよろしく願いいたします。



令和8年度 新任医師紹介

※診療科順



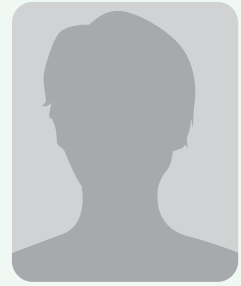
腎臓・リウマチ・
感染症内科 副部長
まきいし しょうへい
牧石 祥平



糖尿病・内分泌・
栄養内科
さかい わか
堺 和花



血液内科
せおりょうた
瀬尾 僚太



血液内科
つじ ともき
辻 共喜



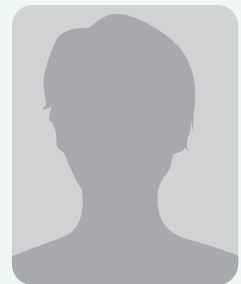
呼吸器・
アレルギー内科
みずしま いさみ
水島 伊佐美



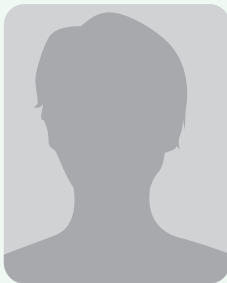
消化器内科
まきもと なるあき
槇本 成晃



消化器内科
みやづ ゆうき
宮津 祐希



循環器内科
よこやま はるき
横山 遥貴



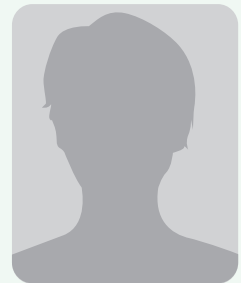
整形外科
かねたけ こうせい
金武 航世



脳神経外科
ほりかわ としひと
堀川 利仁



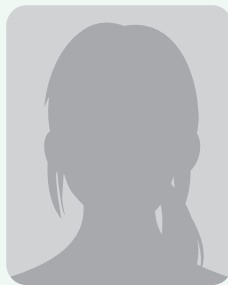
皮膚科
こばやし ようすけ
小林 洋介



耳鼻いんこう科
おおた たかゆき
大田 貴之



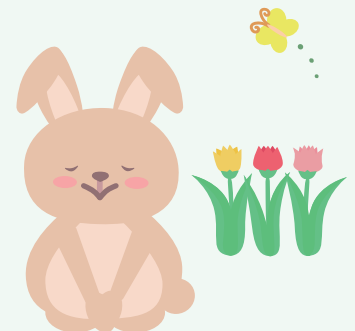
リハビリテーション科
わだ ひかる
和田 輝至



麻酔科
ほりい みずき
堀井 瑞月



健診部
ささおか としやす
笹岡 利安



やすらぎの会・クロスサロンとやまのご案内



開催日	テーマ	時間・場所
4月16日(木)	やすらぎの会「がんと治療について聞いてみよう」	14:00～15:30 3階討議室
5月20日(水)	やすらぎの会「がんと防災について考えよう」 クロスサロンとやま	13:30～15:30 1階多目的室
6月17日(水)	やすらぎの会「がん治療薬について聞いてみよう」 クロスサロンとやま	13:30～15:30 1階多目的室
8月19日(水)	クロスサロンとやま	13:30～15:30 1階多目的室

交流会の様子です。
聴くことや話すことで気持ちの整理や療養のヒントを得る場となっています。
がんの体験者やご家族であれば、どなたでも参加できます。
ぜひ、ご紹介ください。



※今年度より年間の開催回数に変更となっております。ご注意ください。

お問い合わせ：
富山赤十字病院 がん相談支援センター
☎076-433-2222(代)

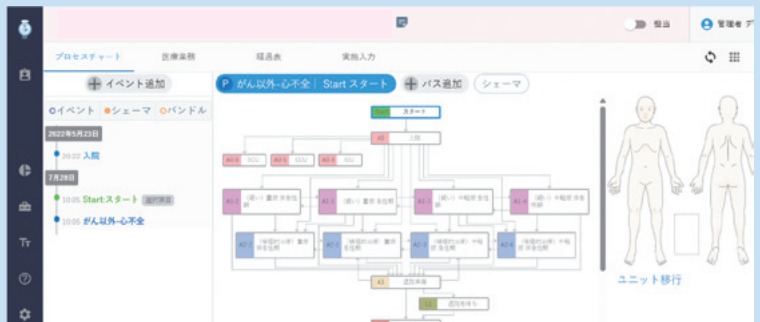
看護計画・記録支援システム「チームコンパス」導入のご案内

医療DX推進室 中田 愛子

当院では看護DXとして、看護計画・記録支援システム「チームコンパス」を導入しました。入院中の患者さんに対する看護の質を、より安定して提供できるようにすることを目的としています。これまでの看護記録は、看護師一人ひとりの経験や視点による違いが出やすい側面がありました。そのため「同じ患者さんでも関わる人によって見え方が少しずつ違う」といったことが課題となる場面もありました。チームコンパスは、こうした違いを少なくし、看護の内容を分かりやすく整理・共有する仕組みです。情報をチーム全体で共有しやすくすることで、より安全で、途切れのない看護に繋げていきます。また、記録に係る時間を効率化することで、看護師が患者さんのそばで過ごす時間を増やすことも期待しています。

【チームコンパス導入の特徴】

- PCAPS (患者状態適応型パスシステム)**：PCAPSは、患者の状態を見ながら最適な看護計画を提供するシステムです。看護ナビで収集されたリアルタイムのデータを活用し、メディスマスターの標準化された情報をもとに適切な看護プロセスを提示します。これにより、看護師は過不足のないケアを提供でき、業務負担を軽減できます。
- 看護ナビ**：看護ナビは、標準化された観察項目を活用し、ベッドサイドでリアルタイムの記録を可能にします。メディスマスターで統一された用語が組み込まれているため、記録の一貫性を保ちながらスムーズな入力ができ、PCAPSとも連動して、患者の状態に応じた適切な看護計画がリアルタイムで調整されます。
- MEDISマスター**：メディスマスターは、看護用語の標準化を通じて、記録の精度を向上させます。看護師が電子カルテや業務記録を入力する際に統一された用語を使うことで、情報の誤解や曖昧さをなくし、他のシステムとの連携をスムーズにします。これにより、看護ナビやPCAPSでの情報共有の正確性が保証されます。



チームコンパスの概要については、動画でも紹介されています。
左記のQRコードよりご覧いただけます。

5月、6月の外来診療に関する医師不在日案内

5月

科名	医師名	不在日
歯科口腔外科	石戸 克尚	15日(金)
脳神経外科	桑山 直也	15日(金)
小児科	津幡 眞一	7日(木)AM
	眞島星利奈	19日(火)PM、26日(火)
心臓血管呼吸器外科	川向 純	14日(木)AM
耳鼻いんこう科	舘野 宏彦	15日(金)
	赤荻 勝一	21日(木)
内科	品川 和子	8日(金)
	仙田 聡子	22日(金)
産婦人科	川上 翔子	13日(水)、14日(木)
眼科	片岡 大智	22日(金)

※5月1日は創立記念のため休診となります。

6月

科名	医師名	不在日
歯科口腔外科	石戸 克尚	25日(木)、26日(金)
脳神経外科	桑山 直也	3日(水)、5日(金)
小児科	津幡 眞一	25日(木)AM
	眞島星利奈	5日(金)、16日(火)PM
内科	黒川 敏郎	18日(木)
	仙田 聡子	12日(金)
	古川 大祐	8日(月)
眼科	片岡 大智	18日(木)、19日(金)

※不在日には、
代診を立てております。



患者支援センターからのお知らせ

「第94回地域医療連携の会」

日時：令和8年5月19日(火) 19:00～20:00

場所：富山赤十字病院 教育研修棟 3階講堂

演題：◇「当院における1型糖尿病の先進治療」

糖尿病・内分泌・栄養内科部医師 上岸 未樹

◇「当院での低侵襲心臓外科手術」

第2心臓血管外科部長 牛島 輝明



*本会終了後に、手術支援ロボット「ダビンチXi」の見学会を予定しております。
ご興味のある方は、ぜひご参加いただき最新の医療技術をご体感下さい。

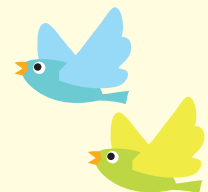
お問い合わせ先：富山赤十字病院 患者支援センター

TEL：076-433-2492 FAX：076-433-2493

編集後記

昨年6月から患者支援センターで仕事をさせていただき、10か月が経ちました。未経験で右も左も分からない私を温かく受け入れて下さった先輩方には感謝しかありません。まだ一人前と言えるほどではないですが、今後も患者さんにご家族の思いに寄り添った支援ができるよう、日々邁進していきたくと思います。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

また、私事ですが、最近高岡市から富山市へと引っ越してきました。以前より通勤時間が短くなり快適さを感じています。新しい環境での生活にもこれから少しずつ慣れていきたくと思います。(社会福祉士 三島 麻友)



紹介依頼など、下記までお問い合わせください。

富山赤十字病院
患者支援センター

TEL：076-433-2492 FAX：076-433-2493

e-mail：byousinrenkei@toyama-med.jrc.or.jp

夜間・休日のお問い合わせは…TEL：076-433-2222(代表)

Fax：076-433-2410(夜間・休日のみ)